

平成21年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立珠洲実業高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果		分析(成果と課題)	
1 生徒との信頼関係を深めつつ意欲関心を引き出す授業改善による学力向上	① 各教科で、節または章毎に小テストを実施や、宿題を課したりして、日常での学習習慣を身に付けさせる。	毎日、家庭学習や自学自習を1時間以上行っている生徒が、 A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	生徒 達成度判断基準 50%以上 平日 前期 12% 後期 6% 後期 41% 後期 33% 評価 ×	保護者 1時間以上 1時間以上 しない 前期 15% 前期 15% 後期 11% 後期 24%	本校生徒のこれまでの実態を考慮すると、今年度の目標が少し高かったのではないかと分析している。年間5回の調査期間中の学習時間に限定して、調査票を提出させたが、残念ながら平均30%という結果に終わってしまった。3年生であることを考えると、1日30分という目標では低すぎるので1時間としたが、学校全体としての生徒の学習意欲を高める取り組みがまだまだ不足していた。	
	② 節または章毎に小テストの実施や課題等を適切に与えている。	節または章毎に小テストの実施や課題等を適切に与えている。 A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。	生徒 学校からの課題や宿題をしている。 前期 49% 後期 52% 先生より課題や宿題が出ている 前期 63% 後期 42%	保護者 学校からの課題や宿題をしている 前期 48% 後期 49%	職員 達成度判断基準 A+B 80%以上 前期 77% 後期 75% 評価 ×	職員の達成度合いはわずかながら基準を下回ったが、まずまずと言える。しかし、生徒の認識との差が見られ、さらに、その課題をやっていると答えた生徒が約50%であることが、①の学習時間の不足の原因の一つにもなっている。課題を出しただけではなく、さらに細かい点検・指導も必要であった。
	③ 生徒による授業評価を実施し、指導法の改善や教材の研究を行う。	授業評価により授業が改善されたと答えた生徒が、 A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	生徒 達成度判断基準 B 50%以上 後期 21% 評価 ×	職員 授業評価により授業改善を行っている 前期 100% 後期 75%	この項目においても、職員と生徒の意識のずれが大いにあることがわかった。職員は授業改善に努力しているが、その効果は生徒に実感としてなかなか伝わっていないようである。ただし、第2回の授業評価時(12月)の生徒調査では、66%が改善されていると答えていたことは確かである。数値的な物についてはほぼ達成されている。前期である程度達成していれば、後期の数値の伸びは少なくなる。生徒は半期で見るが、教師は1年で見る事が差に繋がっている。	
	④ 公開授業や研究授業を積極的に行い、授業改善を図る。	公開・研究授業に向けて教材研究を行い、授業改善を図ることができた。 A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。		職員 達成度判断基準A+B 80%以上 前期 62% 後期 75% 評価 ×	達成基準にやや足りないが、6月と11月に計7日間の授業公開を行い、今年度は新たに全員が期間中一つの指導案を提出して、冊子を作り、お互いにそれを参考にしながら、授業参観ができた点は良かった。また、予定通り全教諭が研究授業を行った点も評価できると思う。	
	⑤ 各クラスに『珠実の100冊』を含めた学級文庫を設置し、読書に関心を持たせ、定着を図る。	『珠実の100冊』を含む学級文庫を利用し、本を借りる数がクラスの月平均貸出冊数で、 A 40冊以上である。 B 30冊以上である。 C 20冊以上である。 D 20冊未満である。	生徒 達成度判断基準 B 30冊以上 31H 前期 20冊 後期 18冊 32H 前期 30冊 後期 26冊 評価 ×	職員 達成度判断基準A+B 80%以上 前期 62% 後期 75% 評価 ×	貸出冊数は目標を達成できなかった。今年度は朝読書の時間が十分にとれなかったのも、貸出冊数が伸び悩んだ理由だと思う。貸出冊数には表れないが、県立図書館や珠洲市立図書館、近隣校などと連携し、進路希望に応じた資料提供など個別のニーズに合わせた取り組みを今年度も実施することができた。飯田高校の生徒も利用していた。	
	⑥ 朝の10分間読書の時間を利用し、『読み聞かせ』を実施し、静かに聴く態度を身に付ける。	『読み聞かせ』に興味を持って静かに聴くことができる。 A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。	生徒 達成度判断基準 A+B 80%以上 前期 49% 後期 50% 評価 ×		今年度で7年目の取り組みとなり、マンネリ化は否めない。1学年のみで、3年間同じクラスの生徒にとって、クラスの生徒の読み聞かせは新鮮味が薄かったのかもしれない。今後の取り組み方としては、教員による読み聞かせや、民話にこだわらず詩の朗読など、幅広いジャンルに取り組みたい。朝読書の時間が進路の関係でとれなかった事も影響がある	
学校関係者評価委員会の評価	①進路が決まるにつれて学習意欲が低下する状況は理解出来る。結果はあまり良くないが、自分の目的の学習に頑張っていたのではないかと。 ②課題には強制力があるが、それにしては低いと思う。 ③教師と生徒のズレが大きい。評議員会に出ていると先生方の努力する姿が伝わってくる。意識のズレが大きすぎる様な気がした。 ⑤個人的な感覚ではまあまあな数字であると思う。分析の中の取組に対してすばらしいと思判定しました。 ⑥静かに聞き興味を示す等はもう少し良い結果を出して欲しい。分析の通り仕方がなかったのかなと思いました。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・課題や小テストの実施による家庭学習習慣の定着に向けた取組は十分な結果を残すことが出来なかった。学習習慣の定着については家庭との連携や適切な課題や宿題が必要であり、授業担当の責任ある取組が必要である。 ・全教科で研究授業を行ったことは評価できていると考えている。お互いが授業をみて、研鑽を積むことが大切である。 ・今年度は3学年だけであり、進路に向けて基礎学力を身に付けさせる事に重点を置いたため、十分な取組が出来なかった。また、生徒にとって興味を持てる題材選びが大切である。					

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果			分析（成果と課題）及び後期に向けての改善策
2 一人ひとりが主役となる生徒会活動とたくましい体力づくりの推進	① 高校生らしい身だしなみと基本的な生活習慣を確実に身につける。	登校時には服装や髪型などでほとんど注意を受けず、きちんとした身だしなみができている生徒の割合が、 A 90%以上である。 B 70%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	生徒 服装身だしなみはきちんとしている	保護者 生徒達の服装や身だしなみはしっかりとしている	職員 達成度判断基準 B 70%以上	後期は、生徒の身だしなみが乱れた。チェックポイントの記入者が少なく、その数と生徒の実態が合わなかったと感じる。職員全員が共通理解を持って指導に取り組む体制をもう少しは早く取り組む必要があった。 生徒にも慣れがあり、指導方法に斬新な方法の工夫が必要だったかも知れない。
			前期 80% 後期 71%	前期 52% 後期 67%	前期 77% 後期 50% 評価 ×	
			生徒 指導が行われている	保護者 指導が行われている	職員 達成度判断基準 A+B 70%以上	
	② 挨拶や服装の乱れなど、不十分な生徒に改善がみられた。	A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。	前期 63% 後期 68%	前期 68% 後期 70%	前期 39% 後期 42% 評価 ×	進路決定後3年生の身だしなみが乱れた。4月からの生活に合わせた指導や講演会などももう少し早く実施すればよかった。 挨拶自体はできていたと思うが、なかなか言葉遣いなど指導が大変だった。言葉の乱れは服装の乱れにつながっていたと思う。
			粘り強く指導を行い、指導依頼書を渡す生徒が A 0となった。 B 3人以下となった。 C 5人以下となった。 D 6人以上となった。			
	④ 携帯電話の校内使用をほぼ0にさせる	月別の携帯電話の預かり件数が、 A 0件になった。 B 3件になった。 C 5件になった。 D 6以上になった。			職員 達成度判断基準 B 3件以下 前期 B 後期 B 評価 ○	校内での月別預かり件数は、3件以下で目標は達成した。ここ3ヶ月はゼロである。
			生徒 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 83% 後期 58% 評価 ×		職員 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 77% 後期 75% 評価 ○	
⑤ 職員・生徒が環境問題を意識し、環境保全・美化活動に積極的に取り組むことができる。	清掃活動を協力しながら積極的に行っている。 A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。	生徒 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 83% 後期 58% 評価 ×		職員 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 77% 後期 75% 評価 ○	達成度基準を上回った。生徒は少ない人数ながら積極的取り組んでくれた。 今後は限られた曜日で限られた場所しか清掃できないので、効率のよい方法を考える必要がある。	
		リサイクルや環境保全活動について理解出来た。 A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。	生徒 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 70% 後期 55% 評価 ×	保護者 リサイクルや環境保全について理解している 前期 70% 後期 65%		職員 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 77% 後期 75% 評価 ○
⑥ 珠洲市での環境保全活動について講演や施設見学を行い生徒の意識を高める。	リサイクルや環境保全活動について理解出来た。 A 良くあてはまる。 B まああてはまる。 C あまりあてはまらない。 D まったくあてはまらない。	生徒 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 70% 後期 55% 評価 ×	保護者 リサイクルや環境保全について理解している 前期 70% 後期 65%	職員 達成度判断基準 A+B 70%以上 前期 77% 後期 75% 評価 ○	達成度基準を上回った。生徒は少ない人数ながら積極的取り組んでくれた。ただし課で計画した施設見学は日程の調整がつかず実行できなかった。 8月に施設見学を例年行っていたが、進路の関係で出来なかった。	
		充実した文化祭にするために、協力を得た団体が A 10団体以上 B 7団体以上 C 5団体以上 D 全く得られなかった。		職員 達成度判断基準 B 7団体以上 インフルエンザにより未実施		新型インフルエンザの影響により、校内だけで実施したが、協力の了解は10団体を超えていた。 生徒にとっては、保護者の協力が嬉しく、いい思い出になったと思う。保護者の皆様に深く感謝します。
⑦ 文化祭には、昨年同様、卒業生や元PTAの方に協力してもらい、展示や販売等を行う。	充実した文化祭にするために、協力を得た団体が A 10団体以上 B 7団体以上 C 5団体以上 D 全く得られなかった。			職員 達成度判断基準 B 7団体以上 インフルエンザにより未実施	新型インフルエンザの影響により、校内だけで実施したが、協力の了解は10団体を超えていた。 生徒にとっては、保護者の協力が嬉しく、いい思い出になったと思う。保護者の皆様に深く感謝します。	

2	一人ひとりが主役となる生徒会活動とたくましい体力づくりの推進	⑧	生徒一人ひとりが意欲的に学校行事に参加できるよう工夫し、学習以外の活躍の場を設け達成感や充実感を得られるようにする。	学校行事やクラス行事に、 A 生徒会を中心に企画・運営し、生徒全員が積極的に参加している。 B 企画された行事にほとんどの生徒が協力して参加している。 C 企画された行事には参加している。 D 教師に促されて参加する生徒がいる。	生徒 生徒会行事に積極的に参加した。	保護者 生徒会行事に積極的に参加している	職員 達成度判断基準 B以上	生徒会が行事をしっかりと計画し、役割分担をするなど工夫をしたことで全員が参加する行事となり、アンケート結果に見られよう一人一人が達成感や充実感を得られた。 大きな行事が前期に終了しているため、後半は評価するものが無かったと思える。しかし、課題研究発表会や清掃など全員で取り組む際に協調性が現れていた。 生徒会で行われた工夫されたさまざまな行事に生徒は意欲的に取り組んでいたと思う。	
					前期 85% 後期 77%	前期 60% 後期 50%	B 評価 <input type="radio"/>		
		⑨	登校時の挨拶運動や行事などを通して生徒会が範となり、卒業までに社会人として恥ずかしくない挨拶を身に付ける。	きちんとした挨拶や言葉遣いの指導を日常的に実施し、 A 指導の成果が得られた。 B 一定の成果が得られた。 C 効果があまらなかった。 D 指導が徹底できなかった。				職員 達成度判断基準 A+B 80%以上	進路が決定する秋頃までは意識していたように見えたが、決定後は、安心感が悪いほうに現れ、言葉や服装の乱れが見えてきた。良い悪いの判断は出来るが、時と場所を考えて切り替えることが出来ない生徒が多いので、限られた時間の中で少しでも理解させたい。 挨拶は充分できるが、言葉づかいを十分に指導出来ず、残念に感じる。ただ、注意ではなく、指導に工夫が要ったかも知れない。
							前期 100% 後期 75% 評価 <input checked="" type="radio"/> 職員 指導は行っている 100%		
	新規	⑩	三校(中島・輪実・珠洲実)合同行事を通して初対面の人とのコミュニケーション能力を身に付ける。	三校合同行事で、 A リーダーが育ち、行事が円滑に行われた。 B 行事が円滑に行われた。 C なんとか行事が行われた。 D 他校と交わらず、自分達だけで行事が行われた。			職員 達成度判断基準 B以上	事前に数回打ち合わせを行い、生徒会が交流していたことで行事がスムーズに進行した。班別にしたことで他校生徒への声掛けがしやすかった。人見知りが多い本校生徒なので不安そうだったが、運動会ということもあり一緒に楽しむ間にうまくコミュニケーションを取れるようになっていた。いろんな経験を通して少しでも抵抗感を無くし、積極性を身に付けて欲しい。	
	継続	⑪	体力テストを通して、体力の向上と健康の保持増進に向けて取り組むことができる。	体力テストの結果 A A、B判定の生徒が50%以上 B A、B判定の生徒が45%以上 C A、B判定の生徒が40%以上 D A、B判定の生徒が40未満			職員 達成度判断基準 B以上	体力テストの結果A、B判定の生徒は64%であった。3年連続で、向上しており、一校一プラン体力アップの成果が現れた・今後体育の授業を中心に体力向上と保健指導をしていきたい。	
			学校関係者評価委員会の評価	①数年前に比較するとそんなに乱れは感じない。この項目は実業高校生徒の市民からの評判はとても良いと聞いている。 ②、③この項目は実業高校生徒の市民からの評判はとても良いと聞いている。特別指導の件数が0であり、先生方の努力の結果であると思われる。 ⑤鵜飼駅の清掃には感謝しています。生徒職員共に頑張っていると思います。 ⑦見に行けなくてとても残念であった。判断しにくく自己評価です。 ⑧少ない人数でありながらも活発に一つ一つ取り組んでいるように感じました。 ⑨学校へ行くとほとんどの生徒が挨拶をしてくれ、気持ちよかった。挨拶はしっかり出来ていたと思います。 ⑩残された一学年ならではの企画で、おもしろそうに感じる。大変良い経験だと思います。子供達の話聞いて楽しかったんだなあと伝わってきました。事前の交流打合せが、しっかりされていたからだと思います。					
			学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事に参加していると答えた保護者について、状況が理解されている上での解答なのが疑問である。どのようにして行事の状況を知ることができたのかも含めて質問項目の検討が必要である。 ・学校全体として、生徒の意識を高める方法があったのではないかと思う。 ・言葉遣いについて良く就職時に対応できたと思う。挨拶は出来ているので、生徒のいいところは褒める、悪い所は反省するなど新しい注意の仕方を考える事が必要である。 ・携帯の預かり件数が、後半では0であった。年間で15件で、石川県条例やサイバーテロなどの啓発活動を徹底する事が大切である。 					

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果			分析（成果と課題）及び後期に向けての改善策
3 働く意義を考えさせ、自立した社会人をめざすキャリア教育の推進	① 進路決定に関する面接・面談を行う。	生徒の進路決定に関して、 A 生徒、保護者の希望を把握し、指導ができた。 B ある程度の指導が出来た。 C あまり出来なかった。 D 全く出来なかった。	保護者 学校の進路指導は適切である	職員 達成度判断基準 A+B 80%以上		担任と進路指導課以外の先生方は達成基準のAは（保護者の希望）困難だと思うが、生徒との個人面談も実施し、必要に応じて3者（4者）面談も行った。
				前期 88% 後期 86%	前期 38% 後期 67% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	
	② 朝のS、H、Rを利用して進路に関する一般常識問題を1学期に週3回実施する。	一般常識問題を継続的に学習することで、効果があった。 A 良く当てはまる。 B まあ当てはまる。 C あまり当てはまらない。 D 全く当てはまらない。	生徒 A+B	職員 達成度判断基準 A+B 60%以上 31H、32H担任より	担任の負担が大きかったが、進路決定に向けて、クラス全体で取り組む雰囲気が出た。自分の就職に必要な真剣さに欠ける生徒への指導に時間はかかった。今年の状況が厳しいと生徒がしっかりと理解していたのではないかと。	
			後期 42%		評価 <input type="checkbox"/>	
	③ 進路決定に向け、自分の高校生活を振り返り、生活設計する力を養う	定期考査・進路達成に向けて学習計画を立てることが出来た生徒の割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	生徒 達成度判断基準 B 70%以上	前期 60% 後期 46% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>		前期の調査における、進路達成に向けた学習については60%で、目標の70%を少し下回ったがまずまずだった。しかし、定期考査に向けての計画的学習については、45%以下となり、目標をかなり下回った。やはり、本校生徒の学習意欲の向上という課題は依然として残ってしまった。
④ 3年生に面接や実技の指導を行う。	生徒へ作文や面接などの実践的な指導が、 A 12回以上の指導が出来た。 B 10回以上の指導が出来た。 C 8回以上の指導が出来た。 D 6回以上の指導が出来た。		職員 達成度判断基準 B 10回以上	少ない教員の数で大変だったと思うが、学校全体での取り組みができた。また、校長・教頭が先頭に立って指導をしてもらい、助かった。積極的に必要と思う生徒は、問題はないが、消極的な生徒への指導に時間がかかった。一人あたりの持ち分が多かった。残り1名なので面接等の指導をお願いしたい。		
⑤ 専門高校の生徒として、より高い資格取得をめざす。	計画の実現に向けて、努力し成果を得ることが出来た生徒の割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	生徒 達成度判断基準 B 70%以上	保護者 資格取得に向けて計画的に学習している	前期 56% 後期 41% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	前期 67% 後期 55%	検定結果はこれまでの生徒に比べて良くなかった。2年時までの取得状況の悪さが、上位級を目指すことを回避する傾向があった。資格取得への考えの甘さがあり、取組がいつも遅く、十分な結果は得られなかったと思う。学習についてレベルが例年に比べて低かった。
学校関係者評価委員会の評価	①保護者から信頼されている。進路に関する先生方の対応には本当に感謝し、頭が下がります。珠洲実の生徒は幸せだと思います。 ②一般常識問題の内容がどんなものなのか、どの程度の物なのか少し興味があります。何かの機会に子供に聞けばわかることですが。 ③目標がある場合はもう少し頑張ってもいいのではと思う。集計結果は定期考査だけの物のようなので気が抜けた事もありかと思いますが、進路達成にむけてもっと高い結果になると思いますのでBとしました。 ④結果が進路決定の高さに出ていると思う。個別指導ですばらしいと感じました。 ⑤資格取得に関してはレベルが低かったのではなく、自分の目の前の将来に必要な必要でないかの判断で遠い将来の事を考えない子の比率が多かったのではないのでしょうか。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・進路達成に向けた学習や定期考査に向けての計画的学習については目標を下回った。本校生徒の学習意欲の向上という課題は依然として残ってしまったため家庭学習の定着や家庭と学校との連携が必要である。 ・専門学校であるために資格取得は大切であるが、検定に対しての意識が低く、生徒には進路実現の為にどのように意欲を高めていくかが課題である。					

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果		分析（成果と課題）及び後期に向けての改善策	
4 地域の発展に寄与し、地域文化の創造に貢献する多様な教育活動の推進	① 珠洲の実商店の積極的な地元イベントへの参加	外部のイベントに、 A 10回以上出店した。 B 8回以上出店した。 C 6回以上出店した。 D 6回未満であった。			職員 達成度判断基準 B 8回以上 前・後期 5回 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	文化祭・教育週間時の行事が縮小されたり、なくなったことで、昨年度の出店回数を上回ることはできなかった。しかし、地元の商店等に珠洲の実で開発した商品を委託販売してもらった。珠洲の実商店について、商品開発がなかったのは注文ではロット数が多く、在庫がふくれるおそれがあった。在庫が多くあれば、困ることになる。地元商店で委託販売をおこなった。インフルエンザで参加できなかったこともあり、出店回数が少なかった。
	② HPの内容の充実を進める	HPの更新が、 A 3週間以内に1回更新できた。 B 4週間以内に1回更新できた。 C 5週間以内に1回更新が出来た。 D 5週間を超える間隔で更新した。	生徒 ホームページを見ている 前期 24% 後期 26%	保護者 ホームページを見ている 前期 37% 後期 31%	職員 達成度判断基準 B以上 C 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	HPの更新を定期的に行うことができなかったため、生徒・保護者にとって魅力あるものにならなかった。対策として、簡単にアクセスできるブログを開設し、日々更新することで対策を行った。
	③ 携帯用HPをとおして必要な情報を発信する。	携帯用のHPにより、学校からの情報が保護者へ、 A 十分伝わっている。 B 伝わっている。 C あまり伝わっていない。 D 伝わっていない。			職員 達成度判断基準 A+B 60%以上 前期 8% 後期 58% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>	担当者があまり習熟していなかったため、携帯用HPを通じた情報の発信ができなかった。
	④ 花いっぱい運動に意欲的に参加させ、花の世話により、心豊かな人間性を育む。	花いっぱい運動プランターの世話が出来た生徒の割合が、 A 50%以上である。 B 40%以上である。 C 30%以上である。 D 30%未満である。	生徒 達成度判断基準 B 40%以上 前期 9% 後期 16% 評価 <input checked="" type="checkbox"/>			毎日ではなく、多いときでも月に2回程度の水遣りでは積極的に参加したという意識は無いと思う。毎年花植えを行い、登下校時に眺めていたので、これから興味を持ってもらえたら良いと思う。プランターの植え込みは全員でできたが、水遣りは一部の生徒でしか出来なかった。
	⑤ 鵜飼駅・見附海岸清掃を実施し、地域の一人としての意識を持たせ、地域との連携を図る。	定期的な清掃などが、地域から A 評価されている。 B 一定の評価を得ている。 C それほど評価されていない。 D 評価が低い。			職員 達成度判断基準 B 以上 前期 B 後期 B 評価 <input type="checkbox"/>	・本年度の生徒の参加率は高かったと思う。 ほめてあげるべきところだと思う。 ・クラス数が少ない中でよく頑張ってくれた。 生徒がいなくなってから地域の方が清掃をおこなっている。
	⑥ 独居老人宅の不都合な箇所の改善や、生徒ができる簡単な修理を行うとともに、珠洲を支えてきた人々と触れ合うことで心豊かな人間性と郷土を愛する心を育む。	生徒が学んだことが、 A 大変役立つことが確認できた。 B 役立つことができた。 C あまり役立つなかった。 D 役立つなかった。 地域に根ざした活動とし評価された。 A よい評価をうけた。 B 十分な実施効果があった。 C あまり効果がなかった。 D 実施できなかった。			職員 達成度判断基準 A+B 70%以上 予算がなく 未実施 職員 A+B 70%以上 予算がなく 未実施	毎年、市の社会福祉協議会に申し込みを依頼しているが、今年は独居老人からの修繕の申し込みがなかったため出来なかった。 テクニカルボランティアはこれに絞って行くとすれば、予算がつかない限り活動は難しい。 見附島清掃ボランティアには多くの生徒が参加したと思う。
学校関係者評価委員会の評価	①地域から見ると大変頑張っていると思います。生徒や学校の問題で達成できなかったのではないし、新たな取り組みもされているのでAとしました。積極的に会議にも出ることを望みます。珠洲実が閉校になることで珠洲の実商店がなくなるのは寂しいこと。統合後も何らかの形で飯田高に引き継ぎ出来ないものか。教員が少ないのに多くの事に取り組み、それだけでも大変さが伝わってきた。子供達や私自身もこんな風に心掛けてもらっていたのかと感慨深かったです。ありがとうございました。 ②ブログ見ました。おもしろかったです。大変職員が少ない中、大変な作業であると思います。もう少し早くブログを開設していただければ良かったと今思っています。子供達が親に渡さない大切な物などチェック出来いいと思いました。いつまで続くのでしょうか。 ③これも大変な作業だと思い、仕方がないよう思っています。誰にでも出来る物ではないと思いますので仕方ありません。1年間担当の方の頭の中から消える事がなかったと思います。お疲れ様でした。 ④水遣りそのものは簡単な行為だけれども、花を思う気持ちがないと面倒な作業でもある。高校生なら仕方がないと思う。 ⑤宝立の人達は感謝しています。間違いなく市民からの評価は高いと思う。大変すばらしい活動だと思いました。卒業してもどこかで自然に出来ていることを願っています。 ⑥予算が少ない中ではどうしようもないと思う。予算が少なければ商店会などに協力を求めても良かった。財政難がこんな所にも影響している事を知り、心が痛みました。予算がなくても出来るボランティアはたくさんあると思います。学校として動くのは難しいでしょうか。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	予算獲得が学校の取組に影響する事もあるため、学校独自の予算化が必要である。 学校からの連絡をどのように保護者へ伝えていこうかが連携を深める方法である。ブログについてできるだけ毎日の更新を行うことで学校の取組が保護者に理解される。 珠洲の実商店の地元への出店により、地域の活性化に協力出来た。生徒達が地域へ積極的に参加することが、結果的に地元企業への就職率を高める事にも繋がるので、積極的な地域への生徒の参加が必要である。					